

## 【事例報告】

### 埼玉県岩槻高等学校「2012 年度社会参加学習」 東京大学大学院博士課程 細野 隆彦氏(前岩槻高等学校教諭) 筑波大学大学院博士後期課程 古田 雄一氏

司会 それでは続きまして、サービスマーケティングを実施している学校からの「事例報告」です。

まず午前中の「事例報告」は、2012 年度に埼玉県立岩槻高等学校で実践された取り組み「2012 年度『社会参加学習』」について。前岩槻高等学校教諭で、現在、東京大学大学院博士課程に在学中の細野隆彦先生と、この取り組みを働きかけ一緒につくり上げた筑波大学大学院博士後期課程の古田雄一さんをお願いいたします。

細野 はじめまして、細野と申します。現在、東京大学大学院の博士課程に籍を置いています。合わせて愛知教育大学の非常勤講師もしています。3 日前まで授業をしていました。これからお話する研究は、実際の内容は隣にいる古田さんが中心になってやっています、私はお手伝いをしたというものです。

古田 おはようございます。今ご紹介にあずかりました、筑波大学大学院の博士後期課程に在学している古田と申します。実は昨年まで、私は東大の修士課程に在籍して、同じ研究室の先輩、後輩という関係で、僕がサービスマーケティングの協働についてちょうど細野先生とお話したときに「それでは、岩槻高校でやらないか」と言っていたいただいて、今日お話する実践をさせていただいた、そういう経緯で実現した実践についてお話させていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

#### 実践までの経緯

細野 それでは本題に入る前に、一応岩槻高校の様子、それからその取り組みを始める前に、当然のことながら突然、始めるわけですので、いろいろな障害と言いますか、そういったことが予想されたので、そのへんの実際に行なうことができるようになったときまでの経緯をお話させていただきたいと思います。

2011 年の初めに、今話がありましたように相談がありました。それで当時、私は岩槻高校にいましたので、なんとか実践できないかなと考えていました。総合的学習の時間で取り組むことが実際は理想的なのですが、学校全体に理解を得ることはとても難しいだろうと考えまして、とりあえずなんとかできる方法をと考えて、教科ですと比較的理解が得やすいということがあったので、教科として実施をしたいという形で先生方に話を持っていきました。

埼玉県は本当に全県一区で輪切りになっており、岩槻高校の偏差値はちょうど 50 になります。ですから、真ん中当たりの学校だとしてご理解いただければいいと思うのですが、大体 5 割から 6 割が大学へ進学し、3、4 割が専門学校、残りの 1 割が就職、あるいはその他、という学校です。生徒自体は比較的落ち着いていて、創立が戦後すぐでしたので、埼玉県の中では比較的古い学校でもあります。そういう学校で始めたいということで行なったわけです。

1 学年 8 クラス。普通科が 7 クラスで、1 クラス国際文化科という科があります。先ほど申し上げたように、教科から職員のほうに「社会科の授業時間の中でやるからやらせて欲しい」という形で最初は話を持ちかけました。管理職のほうにも「東京大学の研究協力校ということをお願いしたい」ということで話を持って行って、1 年目はそういう形で行なうことになりました。

## 東日本大震災の発生から取り組み

ところが、ご承知のように2011年には東日本大震災がありました。古田さんと相談をしたのですが、この年はやはり地域ということよりも、まず東日本大震災のことを取り上げざるを得ないだろうということで、この年は生徒たちには「東日本大震災に自分たちとして何ができるか」ということ、それは別に被災地だけに限らず、自分たちがこの問題を捉えて何が行動できるのかということを考えて実際にやってみようということ、1年目行いました。これは今日の報告にはないのですが、多くのところが募金を集めたり、いろいろなものを持ち寄って被災地に送ったりするという活動をしました。

先ほど原田先生の話で、「継続」とか「自分で自発的にボランティアという気持ちを」という話があったと思うのですが、あるクラスは自分たちがいろいろ支援をした福島の小学校と交流ができてちょうど1年目のときに、「1年経って、まだ放射能の影響があるだろうから、もう一度何か自分たちでやろうよ」ということになり、もう一度募金をして、1年後に体育館の中で遊べるような道具を送ったりするという活動につながったということがあります。

## 社会科の世界史の中での実施に漕ぎ着ける

そのような感じで2年目を迎えて、2年目は実際に地域でやろうとしたのですが、また一つ大きな課題がでてきました。今度のご承知のように学習指導要領が変わりましたので、カリキュラムが1年目のときは「現代社会」の中でやったので特に問題はなかったのですが、それが変わってしまって、「世界史」を1年生で行うことになったのです。

1年生の「世界史」の中でサービスラーニングはできるかという話になりました。やはり非常に大きなネックだったのは、新たな教科の教科書を一冊終わらせなければいけないという中で、この地域学習を入れるというのは時間が取られてしまうことで、これに対する疑義と言いますか、先生方の中で「総論は賛成だけど、各論はやはりちょっと問題だ」という意見が非常に強かったのです。

そこで何度か話し合いをした結果、「社会科の中で」ということでしたので、社会科の世界史の授業で1年の間に7時間、それを1学期から2学期にかけて使わせてもらうという形で了解を得ました。それで「世界史」の中に組み込むわけですので、本来、「世界史」の授業ではないので、シラバスの中にもあらかじめそれを組み込んで書いて、「実はうちの学校では1年の『世界史』の授業ではこういうことをやります」ということ、入学してくる生徒にも告知をした上で2012年にその社会科学習を始めたという経緯があります。

## 「岩槻の課題」をテーマにした「社会参加学習」

古田 このような経緯を経ながら2年目に入った実践ですが、その具体的な中身を少し私のほうからご説明します。今お話をさせていただいたように高校1年生を対象に「世界史」の時間で行なった実践なのですが、時期としては昨年の6月から9月にかけて行い、内容は、まちや社会の課題について学び、その解決策を考えて実行するというものでした。今回は「社会参加学習」という名前を付けてプログラムを実施しました。これからお話していきますが、先ほど申し上げたように、「岩槻のまちの課題」というのがそのテーマでした。

形式として一つ工夫した点として、少人数の班に分かれて活動を行ないました。そこに、後で話しますが、大学生がボランティアで参加して、その活動のサポートを行なうという形式で行なっていました。

今回の社会参加学習の狙いとしては、

〈意識面〉

- ・町のこと、社会のことに関心を持って、社会に参加しようという思いを高める。
- ・自分自身一人ひとりがその経験を受け止めて社会参加について意識するようになる

〈知識・スキル〉

- ・実際に地域でどんな問題が起こっているのかまず把握する。
- ・多角的に分析する。
- ・どのような活動ができるのか考えて意思決定する。
- ・実際に計画して実行する提案参加。

をそれぞれ設定しました。

これは、先ほどの原田先生のお話とフレームワークとして重なります。例えば「公民」とか「社会科」の授業の中でサービスマーケティングを行う場合、唐木先生という先生が設定した四つのステップがあるのですが、まさに原田先生のお話に対応した形で今申し上げた四つの目標設定という形になっています。「問題把握」をして、それを「掘り下げ」て、どんな「解決策」ができるか考えて、「実行」、最後に「振り返る」という流れです。

まさにこの流れを先ほど申し上げた6月から9月に行なったのですが、最初、6月から7月にかけて、最初の三つを夏休みまでに行ない、実際のプロジェクトは夏休みなどを利用して行なって、最後に振り返りを行いました。

## サービスマーケティングの進め方について

今回のテーマは、先ほどありましたように「岩槻のまちの課題」だったのですが、今回は時間的な制約等の関係で、それを六つの小テーマに分けて、どの班がいいかというのをあらかじめ生徒に希望を提出してもらって、同じテーマを選んだ人ごとに班に分かれてもらいました。

〈テーマ〉「観光・広報」「高齢化」「環境」「施設」「交通・通学環境」「商店街」

このテーマは、事前に先生方と大学生とで町を実際に歩きながら、あるいはヒアリングをしながら聞いてきた課題を私たちのほうで六つに設定したということです。

〈実施体制〉班に分かれて活動を行なうのですが、テーマごとの班に、複数の大学生が各曜日に大体5人ずつぐらい参加して班活動のサポートを行ないました。先生に関しては全体の指示とか統括をしていただく、そういう役割分担で進めて行きました。

〈授業内容の構成〉全7回。

授業内容の構成は結構、時間的に限りが正直あります。先ほどちらっと他の実践の資料も拝見したのですが、かなり充実した時間を取っていて羨ましいなあと思うぐらいなのですが、この実践は本当にある種、ねじ込んだ形の7時間なので、資料の中にあります構成になっています。お手元の冊子の資料の16ページ、ないし、もう少し詳しい授業構成は20ページ以降に書いてありますので、ご覧ください。

簡単に申し上げますと、全7回の授業のうち5回が夏休み前の授業です。夏休み前、まず最初に、導入などを経て、生徒たちが自分たちでそのテーマごとにまちの課題について、どのような課題があるかなという資料を集めたりして、ちょっと考えるわけです。

ただ、当然、考えているだけでは議論は深まっていけないので、1回フィールドワークを導入に

行いました。あとで写真も出てきますが、実際にテーマごとにゲストの話を聞いたりしました。ゲストは例えば自治会の方、市役所の方、あるいはNPOの方、そういったさまざまな方にお話を伺ったりするとか、後は実際にまちを歩いて、どんな課題があるかなどいうのを自分たちの目で直接見たり聞いたりするというを行いました。

そのようなことを経ながら第3回、4回ぐらいで、どんな課題があるのかというのを整理して、そのためにできる解決策を考えていくという取り組みを行ないました。夏休み前、最後の授業である程度準備を行なった上で、夏休み中に班ごとにプロジェクト活動、考えた活動を実行しました。

そして6回目、その夏休み明けの9月の時期に、クラス内でプロジェクトの成果、「こんなことをやりましたよ」ということを発表し合い、最後はまとめ・総括の振り返りを行なうという流れで行ないました。では、もう一度バトンタッチをします。

## プロジェクトによる教師への成果

**細野** やはり突然、授業の中にこういう取り組みを入れたので、先生方すべてが協力的であったわけではないのです。当然のことながら、特にこのプロジェクトを実際行なうのが7月、8月の夏休みとなると、「その時期に部活動の練習があるので、それに取られるのは困る」という声も非常に多く出されましたし、なかなか学校全体でこの取り組みができたというわけではありませんでした。しかし、やること自体の趣旨は理解をしてくれましたし、やったことの意味合いも理解はしてもらえました。

それからもう一つ、そのように部活をととても大事に考えている先生たちの中にも、地域にフィールドワークで出ていくときは土曜日ですから特に先生方をお願いはしないで、大学生と私で学校に来ていろいろやったのですが、そのときに担任の先生が来てくれて、自分のクラスにずうっと一日付いて、子どもたちと一緒にフィールドワークをやってくれた先生もいました。そうやって実際にこういう活動をしていく中で理解を示していく先生が徐々に増えてくるというのは非常に嬉しかったし、心強いなと思いました。

## サービスマーケティングの実施状況について

今スクリーンに写っている写真は、最初に、「こういう事柄について自分たちは何ができるか、いろいろ相談してみようよ」といういろいろな提案を行っているところの様子です。1回目、2回目当たりのところの様子で、岩槻のまちの様子をよくわからない。生徒たちは、かつては岩槻地区からの入学が非常に多かったのですが、最近では隣のさいたま市の大宮近辺から来る生徒も非常に多くて、高校に入って初めて「岩槻」という駅に降りたという生徒たちもたくさんいましたので、その子たちが「岩槻って一体どういう歴史があって、どういう町なのか」ということをいろいろ調べて学んでいくところから始まったようなところです。

この写真は、ちょうど2回提案活動をやった後にフィールドワークに出かけるところの様子です。大学生たちに付いてもらって市役所に行くところです。次の写真は、学校のほうに地域の自治会の方に来てもらって、高齢者の人たちの福祉の問題に関心のある生徒たちに話をしてもらっているところです。次の写真は市役所のコミュニティ課の人にいろいろな説明を受けているところです。実際に質問項目は子どもたちのほうから事前に出して、それについて答えてもらうという形を取っています。中には全然市役所と関係ない質問もあったのですが、それも市役所のほうにぶつけてしまったので、自分の部署とは関係ないことなのですが、わざわざそれを丹念に調べてくれて答えてくれたという状況もありました。

それからこの写真は、その後、戻ってきて、それをもとにして、今度は自分たちでどういうプロジェクトにできるかということを具体的に話し合っているところです。大学生に机の間を回ってもらってアドバイスをしてもらおう。教員も「決して引き回しにならないように」と注意しましたが、大学生もずいぶん気を使ってくれて、様子を見てアドバイスをするという形に徹して、生徒たちのとにかくやりたいことがうまくできるよということに進めました。

この写真も実際に生徒が考えているところに対して大学生がアドバイスをしてあげているところになります。実は7回あるのですが、結局、非常に少ない時間です。ですから、どうしてもプロジェクトをやる上で具体的な実際の準備が授業時間内ではできないので、昨年2012年度も夏休みに一日、実際にその準備をする日という日を設けました。この日については、夏休みに全学年の生徒が一斉に来ると、大学生のほうの手一杯になってしまって準備ができないので、生徒をある程度振りわけをして、時間を分けて実際に準備をしました。この写真は、「1年4組 観光について」というところなのですが、この観光についてのプロジェクトの準備をいろいろしたりとか、あるいは書いたりとか、そういうことに夏休みの一日を使っているときの様子です。

この写真は、プロジェクトが終わった後、実際に自分たちがどういうことをやって、どういうことに気がついて、どういうことが学べたのかということを含めて、振りかえりの発表の機会を7時間目として設けたそのときの模様ですが、プレゼンテーションのような形で生徒が作ったものを発表させるという形で行ないました。模造紙には活動についてそれぞれいろいろと気付いたことを貼っています。

## プロジェクトの取り組み内容の紹介

古田 では、実際にどのような活動が生まれたのか、1クラスに6、7班あって、かつ全8クラスあるので全部をご紹介しますが、資料の17ページに全プロジェクトを参考までに羅列してあります。その中の一部をちょっと抜粋してお話します。

「観光・広報」のテーマだと、例えば、「ゆるキャラ」と言うのがありますよね。今ゆるキャラのブームですが、高校生にするとこの地域のゆるキャラがダサイというところに問題意識があって、岩槻の新しいキャラクターを提案してみようという活動がありました。他にも、岩槻の料亭をPRするために何か実際にインタビューを行って冊子にまとめるとか、そのようなことを行っている班もあります。

「高齢化」ですと、例えばちょうど見守り活動というのを区でやろうとしていて、それについて話を伺って、できれば実際に訪問までしたかったが、そこまではいかなかったという班もありました。それ以外にも面白いなと思ったのが、高齢者の方でどうしても信号を渡り切れないという方がいるのです。「特にこの信号の時間短いよね」という信号を絞って、どのくらいの方が渡り切れているのか。渡り切るまでに掛かる時間を調べて、その結果をもとに区役所に「こういう結果なので、もっと改善してください」という意見を出したりした班もありました。

「環境」に関しては、やはり一番多かったのはごみ拾いの活動です。ただ、それも具体的に「この地域のこの部分が多いから、ここでやろう」とかということ、生徒たち自身が考えて行なっていましたし、中には「単にそれだけでは減らないから、ごみ箱を設置してください」などということを提案する班もありました。

「施設」の班では、例えば「地域の図書館をもっと若い人に使ってほしいよね」ということをフィールドワークの中で聞いた班が、「でも、それはどうやったら使ってもらえるのかということを知りたい」ということで、自分たちでアンケートを作り、自分たちの学校の生徒 100 人に配って集計して、「若い人はこのようなことを考えています」ということを図書館の人に届けたという班があります。

「交通・通学環境」では、コミュニティーバスが岩槻もあるのですが、そこの利用者が少ないという問題に目をつけて、街頭でもアンケートを実施して、その結果を実際に市役所の担当者の方に電話で知らせたり、放置自転車の問題を知らせるチラシを作って実際に配ったりしたという班もあります。

「商店街」というテーマでは、商店街の人の今の思いをまずインタビューをしてまとめたりとか、料理を提案したりとか、いろいろな形があります。

## 生徒の変化について

よく課題解決には「直接的なサービス」「間接的なサービス」「アトボカシー」など、いろんな種類があると言われるのですが、単にごみ拾いみたいな感じで直接的に何かするだけではなくて、何かそれを市役所に提案したりして、いろいろ課題解決の幅を広げた活動がこの生徒たちの中で生まれてきたということが一つ特徴かなと思います。

生徒の変化としては、詳しいところは時間の関係で割愛いたしますが、全体としては、アンケートを取ってみると、かなりいろいろな変化が見られました。生徒への実際のアンケートというか、毎回生徒たちのリフレクションの意味も兼ねて、自由記述ないしはこちらから問いを投げているようなことを書いてもらっているのですが、そこから抜粋したものをご紹介します。

〈意識面〉で言うと、まず一つ見られたのが、**自己肯定感に関することを書いた子が多かった**です。「高校生としてはすごいことをした」とか、「自分から動けば変わることがある」、そういった意見が多々聞かれました。また、**問題意識の高まり**ですよね。「人まかせにはせずに、自分から行動に移せるように努力していきたい」「私たちが岩槻を活性化するために頑張りたい」、あるいは「他の町を見習っていかないといけない」。これはもう少し批判的な問題意識でもありますよね。「岩槻はこのままではだめだろう」みたいな、そういう問題意識なども見られました。

それに、「自分たちの場所でもどんどんボランティアやっていきたい」とか、岩槻に住んでいない子でも「自分の地元でもこのような活動ができたらいいな」という声が聞かれました。また、**岩槻への関心**としてもこういう活動をやることでいろいろ芽生えたりしたということもあります。資料のほうにありますので、ご覧ください。

〈知識・スキル面〉でも、例えば「岩槻にどんな問題があるかということに関してもいろいろ知ることができた。むしろ、それを知らなかったということに気づくことができた」という意見などもありました。また、「それを考えるだけでなく、実際にどんなことをしたら解決できるのかということ考えられるようになった」という声も聞かれました。

## この授業で大切にしていたこと

最後に、私がこの授業で特に大切だなと思ったことについてお話します。**サービスラーニング**ではしばしば、やることを先生が決めて、「こういう活動をみんなでやりましょう」といって生徒に与えてしまうという

ケースがあると思います。もちろん、それはそれでたぶん意義は当然あるとは思いますが、私が「やってみたいな」、「意義があるかな」と思ったことは、生徒たちができるだけ自分たちの力で「どんな課題があるのか」と見つけ、自分たちの力で解決してみるということではないかということです。

もちろんそれだけではなかなか課題が見えてこないで、先生方の指導とか大学生のサポートも必要なのですが、**生徒たちが大学生や大人と一緒に課題を見つけて学び、解決策を考えていくということが大切であり、そのような実践をもっとすべきではないか**ということです。こういうことをふまえて、実際、今回の授業では、生徒たちができるだけ自分たちから課題を見つけて解決策を考えること、そして、それを解決策に実際に移すということをやっていました。

そして、その実践を成り立たせていく上で大事だった、すごく大きかったなと思うことは、「どうやったら実現していけるだろう」という生徒たちの思いを受け止めて、ある種、一緒に走ってくれる伴走者としての役割を果たしてくれた大学生の存在です。このあたりの話は、また資料を後ほどお読みいただければと思います。

単に大人が「こういうことをやりましょう」と生徒に与えて、生徒が地域に「貢献します」とお返しするというだけではなくて、生徒たちが地域の人たちと一緒に考える、サポーターと一緒に考える、教師と一緒に考える、地域のために何ができるかなということを様々な人たちと一緒に考えて、一緒に動いていく、そういう関係をつくっていくことが大事ではないかということを僕はこの実践の中で感じました。

## 生徒の地域に対する見方が変わった

**細野** 実際、岩槻という地区で、先ほど自治会の会長さんの話を少ししたのですが、「生徒には見回りのほうを期待したいのだ」という話もあったのですが、「とにかく、まず実態を高校生に知ってもらおうということがこちらとしては最大の希望なのだ」ということを話して、生徒に実際に知ってもらおう機会を提供できたということで自治会長には非常に感謝されました。

実はその自治会に岩槻高校は以前からお祭りのときにいろいろ参加、協力をしていたのですが、この学習のせいだと思うのですが、生徒たちの参加が増えました。更に岩槻市の祭りのほうにも積極的に参加する生徒たちも増えました。

岩槻は人形の町ですので、人間が人形になってずうっと町をねり歩くお祭りがあるのですが、生徒の希望者が例年よりもものすごく増えて、やはり地域に対する見方が高校生の中でずいぶん変わったかなという感じがしました。

それからこのプロジェクトをやるときには、その地域の方々にはあらかじめお願いに行きました。例えば、警察署には「募金活動をするので路上の使用許可願いを取りに行くとと思いますが、よろしくお願ひします」とお願いに行ったのですが、「でも、そこで特別扱いをしないで、普通の一般と同じようにしてください」と言いました。そういうことで、子どもたちには一切そのことは話さないで、そこへ調べて行きなさいとだけ言いました。

まず、最初に駅に行ったら駅で断られて、今度は警察だというので警察に行って、警察に行ったら「2,500円掛かるよ」と言われて、「それでは、嫌だ」とあきらめた班もあるし、2,500円は払いたくないから、学校に戻ってきて「学校だという証明をもらって」と警察に言われたということでそのようにやった班もあるし、いろいろ普段なかなか学校の授業ではできない経験が子どもたちは

できたという点は非常に大きかったかなと思います。

## 「社会科」での実践について

それから、「社会科」でやったということですが、本当だったら総合的な学習の時間でやるのが非常に理想的なのですが、社会科でやったので、少なくとも実際に昨年度は社会科の教員がずいぶん関わってくれましたのでその意味を指導することができました。今年度は大学生が入ってという形で、このような形の授業、地域と結びついた何か、去年までやったことを継続できるようなことをやるというところまでは決まっているということでした。その後も続いているだろうと思っています。

そのような実践報告でした。これで終わらせていただきます（拍手）。

司会 細野先生、古田さん、ありがとうございました。改めて感謝の拍手をお願いいたします（拍手）。